



Title : 図書館員がいっぱいの中へ

❖秋田県図書館大会へ

本日午後1時から秋田市で、秋田県図書館協会他主催の「第38回秋田県図書館大会」が開催されます。県内の図書館員や読書推進活動に携わる人たちの、年に一度の集まりです。今年の大会テーマは「図書館が変わる―秋田の図書館活性化に向けて―」。

大会では例年、まず全国的な知名度のある図書館人を招いての基調講演が行われ、続いて県内外3館ほどの事例発表があつて、引き続き質疑応答が行われます。去年初めて参加しましたが、図書館に関心のある市民も詰めかけ、なかなかの盛会で結構面白かったです。今年の講師は元塩尻市立図書館長の内野安彦氏で、現場からの知見と挑発がいっぱい聞けるはずで楽しみです。

でも今年は、面白がってばかりもいられません。大館市立図書館も事例発表を行うことになってしまったからです。なんでウチが？という感じですが、県内図書館初の指定管理者制度導入ということで、それなりに注目されているということなのでしょうね。県内の新聞でも割と好意的な記事が多いし。取り立てて目覚ましい活動をしているわけでもないのですが、しょうがない、腹をくくって何か喋ってきます。うう、緊張する。

17年前の平成9年4月だったか5月だったか、秋北ホテルでまちづくり協議会主催のパネルディスカッションに引っ張り出された時のことを思い出します。とにかく文教振興事業団がまだ立ち上がったばかりで、大館樹海ドームがまだ完成していない頃です。壇上には、設計施工にあたった竹中工務店の方、市の担当課長などが顔をそろえていました。事業団は管理運営側ということでしょうが、そんなこと言っただけで4月1日から勉強し始めたばかりで当然何の実績もないのに……。しょうがないので、そこでは夢を語りました。大好きな映画の『フィールド・オブ・ドリームス』のラストシーンのように、車のテールランプが延々と続く夢の球場にしたい、と。

夢の一部は早々に、7月の大館樹海ドーム誕生祭という記念イベントで達成できました。コンサート花火などの特殊効果を使うため夕方から始めたイベントに続々と人が詰めかけ、市内中心部から渋滞が起こっているとの知らせ。空から俯瞰で見たかったなあ。およそ1万人が詰めかけた会場を見渡して、司会の石垣正和さんが「すげえ、こんな人数初めて見た」と呟いたことも、未だに記憶に鮮明です。

ま、今日の事例発表も何とかなるでしょう。

❖読みきかせと芸術のあいだ

『スーホの白い馬』という名作絵本があります。馬頭琴の起こりを語るモンゴルの民話を、大塚勇三が再話し赤羽末吉が画にした、昭和42年初版のロングセラーです。いもとようこさんとか他の方の画でも発売されていますが、この絵本に限っては赤羽氏の無骨ともいえる筆に勝るものはないでしょう。

来週の月曜日6月16日の午後6時半から、ホテルクラウンパレス秋北を会場に、大館市出身の佐々木愛（劇団文化座代表）の語りによる『少年（スーホ）と白い馬』

の公演が行われます。当紙では先に玉林寺の桑名住職が書かれているので詳細は省きますが、佐々木愛さんの練達の話芸に加えて、モンゴルからの馬頭琴とホーミーのアンサンブルが何よりも楽しみです。ぜひお子様連れ、お孫様連れで鑑賞していただきたいと思います。

プロの手になる舞台芸術としての語りと音楽を体験することは、子や孫に読み聞かせをする際にもきっと生きてくるはずです。特に間の取り方は勉強になることでしょう。とはいえ、勉強するためでなく、子どもに帰ってお話を楽しんでほしいと思います。それでこそ身になるものですから。

それにしても日本人は、動物が亡くなる話に、ホント弱いよね。（陽）

※公演の問合せは実行委員会小林さん（080・1695・7879）、岩谷さん（080・1840・8630）まで